

JIS

加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—フレクソメータ による温度上昇及び耐疲労性の求め方

JIS K 6265 : 2025

(JSA)

令和 7 年 9 月 22 日 改正

認定産業標準作成機関 作成・審議

(日本規格協会 発行)

一般財団法人日本規格協会 化学分野産業標準作成委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	国 岡 正 雄	国立研究開発法人産業技術総合研究所
(委員)	碓 井 俊 一	一般社団法人日本ゴム工業会
	上 島 悦 子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会
	栢 英 則	日本プラスチック工業連盟
	下 鍋 達 也	公益社団法人自動車技術会
	永 田 淳	一般社団法人日本分析機器工業会
	野 田 浩 二	一般社団法人日本化学工業協会
	百 武 健一郎	一般財団法人化学物質評価研究機構

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 8.3.1 改正：令和 7.9.22

担 当 部 署：経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課
(〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1)

官 報 掲 載 日：令和 7.9.22

認定産業標準作成機関：一般財団法人日本規格協会
(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti)

素 案 作 成 者：一般社団法人日本ゴム工業会
(〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル)

審 議 委 員 会：化学分野産業標準作成委員会（委員長 国岡 正雄）

この規格についての意見又は質問は、上記認定産業標準作成機関又は素案作成者にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに見直しが行われ速やかに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	2
3 用語及び定義	2
4 試験の概要	5
4.1 一般事項	5
4.2 試験の種類	5
5 定ひずみフレクソメータ試験	5
5.1 試験装置	5
5.2 試験装置の校正	10
5.3 試験片	10
5.4 試験方法	11
5.5 試験結果の表し方	12
5.6 試験結果のまとめ方	13
5.7 試験精度	13
5.8 試験報告書	13
6 定応力フレクソメータ試験	14
6.1 試験装置	14
6.2 試験片	19
6.3 試験方法	19
6.4 試験結果の表し方	22
6.5 試験結果のまとめ方	24
6.6 試験精度	24
6.7 試験報告書	24
附属書 A (参考) 定ひずみフレクソメータ試験－試験精度	26
附属書 B (参考) 定応力フレクソメータ試験－試験精度	28
附属書 C (参考) 精度の結果を利用するためのガイダンス	30
附属書 D (規定) 試験装置の校正	31
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	35
解 説	37

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 14 条第 1 項の規定に基づき、認定産業標準作成機関である一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準の案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS K 6265:2018** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—フレクソメータによる 温度上昇及び耐疲労性の求め方

Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of temperature rise and resistance to fatigue in flexometer testing

序文

この規格は、2010 年に第 2 版として発行された **ISO 4666-1**、2022 年に第 4 版として発行された **ISO 4666-3** 及び 2018 年に第 2 版として発行された **ISO 4666-4** を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、圧縮形のフレクソメータを用いた、加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの内部発熱による温度上昇、動的なクリープ及び永久ひずみ並びに疲労破壊寿命の求め方について規定する。

この規格で規定するフレクソメータは、JIS K 6253-2 に規定する国際ゴム硬さが 85 IRHD 以上の加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの試験並びに JIS K 6253-3 に規定するタイプ A デュロメータ硬さが A85 以上の加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの試験には適用しない。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 4666-1:2010, Rubber, vulcanized—Determination of temperature rise and resistance to fatigue in flexometer testing—Part 1: Basic principles

ISO 4666-3:2022, Rubber, vulcanized—Determination of temperature rise and resistance to fatigue in flexometer testing—Part 3: Compression flexometer (constant-strain type)

ISO 4666-4:2018, Rubber, vulcanized—Determination of temperature rise and resistance to fatigue in flexometer testing—Part 4: Constant-stress flexometer (全体評価：MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1** に基づき、“修正している”ことを示す。

警告 1 この規格の利用者は、通常の実験室での作業に精通していることを前提とする。この規格は、その使用に関して起こる全ての安全上の問題を取り扱おうとするものではない。この規格の利用者は、各自の責任において安全及び健康に対する適切な措置を取らなければならない。

警告 2 この規格で規定している試験を行う上で、使用する物質、生成する物質及び廃棄物が環境に及ぼす有害性を考慮し、取扱い及び廃棄を含む全ての行為に関して、これらに関連する法令・規則要求事項に従う。